



豪華なシティホテルにはない  
島の日常の魅力を体感してほしい。  
「また帰って来たい」と思って頂ける  
そんな宿を目指しています。

Interview  
豊島  
かりんの宿  
島田 好代さん、明さん、定幸さん  
ご家族

両親が残してくれた古民家を「親孝行になれば」と自ら修繕し、家族で始めた民宿。  
宿泊者との交流を進めることで、「豊島の魅力を世界中の方々に見つけて頂くサポートを」と語る島田さんファミリー。  
開業までの経緯や民宿に対する思いをお話して頂きました。

## 現在、農林漁家民宿をどのような形で営業されていますか？

私たちの民宿は、一日一組限定の棟貸しという形で営業しています。同じ建物で家族も暮らししており、宿泊者にはその日常の営みも含めて島の暮らしを感じていただければと思っています。訪れる方の多くは、豊島の自然やアートに魅力を感じて来られる方が多いです。島で受け継がれてきた暮らしや文化を感じて頂き、宿を豊島探索の拠点として気持ちよく使っていただけるよう心掛けています。

豊島を農漁村としての視点だけでなく、歴史や文化・自然など多様な角度から知っていただけるよう、宿泊者の興味に合わせてご案内や提案をするようにしています。海外からの来訪者も多いため、海外向けの宿泊サービスも活用しています。予約や支払い管理を任せられるので安心して受け入れ準備に集中できる点も助かっています。

宿泊者とは事前にメールで到着時刻や港を確認し、必要に応じてお迎えに行きます。港での出会いは、とても大切な時間です。チェックインの時間を伝え、それまでの過ごし方を伺って、島での時間を有意義に使っていただけるようアドバイスします。「またあとでお会いしましょう」と声をかけるだけで自然とお互いの距離が縮まるのを感じます。

一泊だけの短い滞在であっても深い交流が生まれることがあります。自己紹介から始まり、仕事や暮らしについて話しているうちに会話が広がります。少ない言葉の中に込められた相手の思いを受け止め、関係を深めていきます。長旅で表情が硬かった方も食事を楽しむなど時を重ねるたびに、ほっとした笑顔へ変わっていく姿を見ると、私たちも自分のことのようにうれしくなります。

翌朝には、ぐっすり休んで元気を取り戻し、笑顔で「ありがとう」と発っていかれる姿を見ると、この民宿を始めて良かったと実感しています。

短い滞在期間でも豊島の魅力を少しでも見つけていただくこと、そのきっかけをつくり深めることこそが、私たちが最も大切にしているものです。



フェリーが発着する港の近くに宿があります。必要に応じてお迎えに行くことも。

門をくぐるにDIYで作成した垣根や、可愛いイラスト看板が宿泊者を出迎えてくれます。

## お宿のPRポイントをお教えください

漁村に近い静かな集落にあるこの宿には小さな和風の庭があり、小鳥の声で目覚めることもあるほど穏やかな環境にあります。訪れた方に「どこか懐かしい宿」と感じていただけるような場所になりたいと思っています。

建物は築50年以上の昭和の面影を残す佇まいで、先祖から受け継いだ浮世絵や和綴本、家族が制作した絵画や彫刻などの作品をさりげなく置いています。これらは来訪者と言葉を交わさずきっかけにもなり、相互理解を深める契機のひとつになっています。

自然やアートだけでなく、日本ならではのマナーや気遣い、豊島の暮らしそのものも宿の魅力の大切な要素だと考えています。人と人との距離感や、日常の生活を感じ取っていただけることも、ここでこの滞在の魅力につながると思っています。

宿は私たちの生活の場と客室とを程よく分けているのも特徴で、1階には家族が暮らし、2階とバスルームはゲスト専用となっています。家庭的な雰囲気を保ちながらも、宿泊される方に安心して過ごしていただけるような空間づくりを意識しています。

また、家庭菜園で育てた季節の野菜を、自炊される方に提供することもあります。自然の恵みをそのまま味わっていただけるのも、この宿ならではの魅力のひとつです。

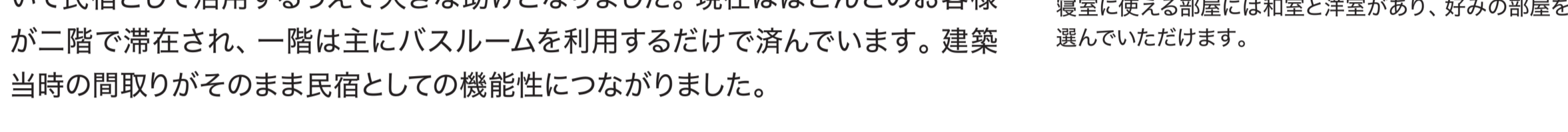
## なぜ農林漁家民宿をはじめようと思ったのでしょうか？

豊島や東備讃瀬戸一瀬戸内海の魅力を、様々な方の視点を通して新しく発見して頂きたいという思いがあったからです。豊島で代々生活してきた祖先の系譜を受け継いだ家屋と、豊島と小豆島で生まれ育ち、そこで身につけてきた生活文化があれば、地域の魅力を伝える拠点のような場をつくることもできるのではないかと考えるようになりました。

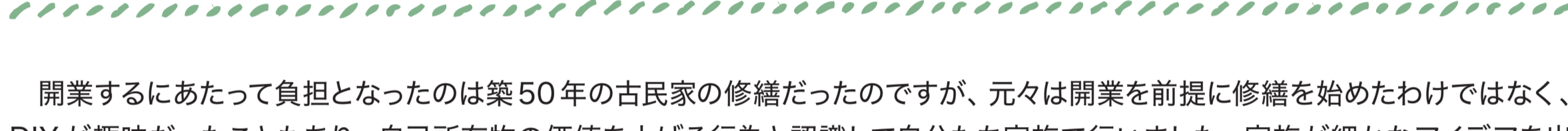
実家を相続した当時は年に数回家族が泊まる程度だったので、劣化が進み物置のようになっていました。まずは雨漏りを直すところから始めましたが、次はここも直そう、その次はあそこも……とDIY感覚で少しずつ手を入れました。この家は親が子供たち、つまり私たちのために建ててくれたようなものなので「親孝行のつもりで、きちんと活用して行こう」と思うようになりました。また、「この家は民宿に向いているのではないか」とヒントを頂いた事もあって民宿を始めることにしました。

当初は、月に一組か二組ほどお客様が来てくれたら十分だろうと考えていましたが、まさかこんなに多くの人に泊まっていたらいいかなとは想像もしていませんでした。

この家が新築された当時としては珍しく、二階にも洗面所とトイレが設置されていて民宿として活用するうえで大きな助けとなりました。現在はほとんどのお客様が二階で滞在され、一階は主にバスルームを利用するだけで済んでいます。建築当時の間取りがそのまま民宿としての機能性につながりました。



和風の庭に訪れる小鳥の声で目覚めることも。



部屋には先祖から受け継いだ和綴本や浮世絵が飾られています。

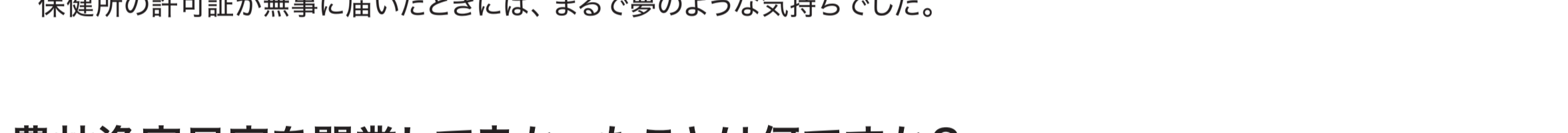
## なぜ農林漁家民宿をはじめようと思ったのでしょうか？

豊島や東備讃瀬戸一瀬戸内海の魅力を、様々な方の視点を通して新しく発見して頂きたいという思いがあったからです。豊島で代々生活してきた祖先の系譜を受け継いだ家屋と、豊島と小豆島で生まれ育ち、そこで身につけてきた生活文化があれば、地域の魅力を伝える拠点のような場をつくることもできるのではないかと考えるようになりました。

実家を相続した当時は年に数回家族が泊まる程度だったので、劣化が進み物置のようになっていました。まずは雨漏りを直すところから始めましたが、次はここも直そう、その次はあそこも……とDIY感覚で少しずつ手を入れました。この家は親が子供たち、つまり私たちのために建ててくれたようなものなので「親孝行のつもりで、きちんと活用して行こう」と思うようになりました。また、「この家は民宿に向いているのではないか」とヒントを頂いた事もあって民宿を始めることにしました。

当初は、月に一組か二組ほどお客様が来てくれたら十分だろうと考えていましたが、まさかこんなに多くの人に泊まっていたらいいかなとは想像もしていませんでした。

この家が新築された当時としては珍しく、二階にも洗面所とトイレが設置されていて民宿として活用するうえで大きな助けとなりました。現在はほとんどのお客様が二階で滞在され、一階は主にバスルームを利用するだけで済んでいます。建築当時の間取りがそのまま民宿としての機能性につながりました。



寝室に使える部屋には和室と洋室があり、好みの部屋を選んていただけます。

## 開業するための経費について教えてください

開業にあたって負担となったのは築50年の古民家の修繕だったのですが、元々は開業を前提に修繕を始めたわけではなく、DIYが趣味だったこともあり、自己所有物の価値を上げる行為と認識して自分たち家族で行いました。家族が細かなアイデアを出しながら作業をする時間は手間がかかるもの貴重な経験だと感じています。

民宿を開業するにあたって、二階の使用していなかった和式トイレをお客さまが快適に過ごせるように洋式へ変更するなど、民宿として必要な機能を整える改修も進めました。ベッドや布団といった寝具の新調、宿泊可能人数に応じた什器の準備、必要な家電の購入、通信環境の整備などに一定の経費がかかりましたが、田舎で過ごしてきた元サラリーマンでも無理なく進めていける範囲でした。

古民家を購入してから全面改修する方もいる中で、その負担と比べれば比較的小さかったのではないかと思います。ただ、すべてを新しくするのはなく、古くでも使用できるものは大切に残しています。テーブルなどの家具は50年以上使い続けているものもあります。日本の方には古さを気にされる場合もありますが、外国のお客さまからは「使い古された魅力」を評価していただくことが多く、長い年月を丁寧に使い続けてきたこと自体に価値を感じてくださる方もいます。経年の傷も含めて楽しんでいただけるのであれば、無理に新しくする必要はないという思いもあります。

## 旅館業法等の開業手続きは、ご面倒ではなかったですか？

開業手続きについては当初心配していたほどの大変さはありませんでした。特に官公庁での手続きは複雑で時間がかかるのだと覚悟していましたが、県の担当の方がまるでコンシェルジュのように丁寧に導いてくださり助けられました。

実際に現場に入り状況を細かく理解しながらも、全体を見渡す目を持って方向性を示して下さったことが印象に残っています。開業の道のりには多くの不安がありましたが、的確にサポートして下さったおかげで、スムーズに開業へと進むことができました。

保健所の許可証が無事に届いたときには、まるで夢のような気持ちでした。

## 農林漁家民宿を開業して良かったことは何ですか？

豊島や東備讃瀬戸の佇まい、そして瀬戸内海の魅力を、多様なバックグラウンドを持つ世界中の方々に発見していただく、そのお手伝いができることです。重要な社会的責任を担う方やそれぞれの分野で活躍されている方々とも、民宿の門をくぐれば皆同じ人として向き合うことができます。肩書を気にせずお人柄に触れられることは、私たちにとっても大きな果報だと感じています。

文化や芸術に携わる方が訪れるのも多く、ダンスや舞台芸術、建築など、様々な分野のお話を直接聞けるのは非常に貴重な経験です。実際に接してみると、そうした方々の存在感や強さが伝わってきて日常では得られない学びを頂いています。

滞在後にもメッセージを交換するなどの交流が続いてきました。「また帰って来たい」と言っていたのは本当に嬉しいことです。民宿を通じて、「日常では出会えない多くの方々とつながり、その一人ひとりとのご縁を大切にできること。それこそが、開業して本当に良かったと感じる一番の理由です。

## 宿泊者とのエピソードで心に残ったことがあればお教えください

宿泊者とのエピソードは本当に数え切れないほどあり、一組一組がそれぞれに物語を運んで来てくれます。民宿を拠点に島を巡りながら交流が生まれることで、日々新しい物語が生み出されていくのを感じています。

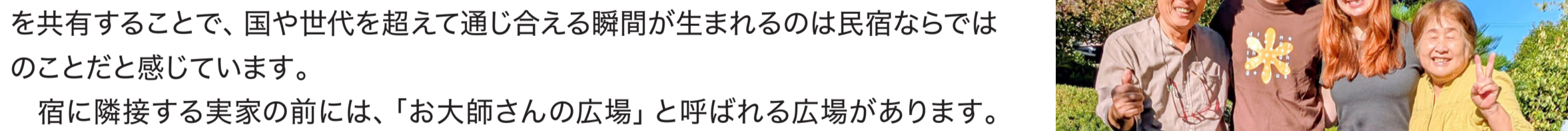
一例を挙げさせていただきますと、中国から若い女性三人組が宿泊してくれたことがありました。素直で行動力のある子たちで、滞在が数日に及び時間の余裕もなかったので、遠く屋島まで望める山頂までご案内しました。屋島を背景に撮った、写真の中に見える彼女たちの表情がとても素敵で、今でもその写真を自分のスマートフォンの待ち受けにしているほど気に入っています。会話の中である漢詩が話題に上がり、とても美しい中国の発音で朗読してくれました。チェックアウト後の部屋には日本語で五・七・五調のメッセージが残され、その後届いたレビューは、自作の翻訳ツールで訳したという日本語文でした。その幅広い分野にわたる能力と丁寧さや誠実さを触れ、日本の若い人たちも負けてはいられないぞと感じました。

また、祖父の家を探索し、日本の日常を自分たちも体験したいという思いで、お宿の手伝いを手始めに祖父の足跡を調べようとしており、日本の戸籍制度を使えば辿れる可能性があるかと伝えると、「ありがとうございます。頑張ります」と言葉を返してくれました。日系一世の祖父から受け継いだ深い愛情が、その探求心の原動力になっているのだと感じ、胸が熱くなりました。

加工して看板を作り、その位置に高層芸術家が数日間滞在されたことがあり、プロフェッショナルでありながら私たちの写真を撮ってくれたり。撮っていただいた写真は表情までしっかりと捉えられていて、今でも大切な一枚です。

ほとんどの宿泊者の人たちが珠玉の言葉を頂きます。「ホスティングで自分のルーツに関する情報が得られるとは思わなかった」「単にゲストとホストとしてではなく、私たちは今回のことで友情を築けたと思っています」「船上から別れる時は、とても嬉しい思い出でした。などのお言葉に接すると、豊島という場所が世界中の素材で良質な心を結びつける“触媒”になっていることがわかり、とても嬉しいです。

これまで数多くの方と出会ってきましたが、嫌な思いをしたことは一度もありません。世界中の素直で優しく知的好奇心にあふれた宿泊者それぞれとの出会いは、民宿を営むうえで何よりの宝物でもあります。



宿泊者から心こめてくれた絵やメッセージを頂くことも。

「お大師さんの広場(盆踊り広場)」に面して置かれた実家の床几台。島に住む人訪れる人の笑顔と笑顔が交錯します。

## 農林漁家民宿の魅力は何ですか？

宿そのものが地域の魅力を伝える主体になり得ることだと感じています。「だから私は、シティホテルばかりではなく、一泊は必ず現地の民宿を選ぶのだ」と話して下さったお客様の言葉は、私たちの誇りであり、農林漁家民宿の存在意義を象徴しているように思います。

訪れた方からは「豊島という場所が一番印象に残ったのは、あなたたち家族がいるから……」「仕事を休んでから癒しを求めて来たのに、知的好奇心を刺激されてワクワクした」「これほど丁寧なサービスこそありません。」「自然とともに歩む普通の暮らしの中にこそ魅力があり、その魅力に惹かれて訪れる方が増えてほしいと願っています。そんな思いを次の世代へ継承していくことができれば理想的だと感じています。

また、豊島の魅力を伝えるうえで、私たちが気づける部分には限界があります。豊島の文化財、自然身に発見できる歴史や、それを営まれてきた暮らしなど様々な魅力をゲストに伝えたいと思います。特別な施設や華やかな名勝観光地があるわけではなく、自然とともに歩む普通の暮らしの中にこそ魅力があり、その魅力に惹かれて訪れる方が増えてほしいと願っています。そんな思いを次の世代へ継承していくことができれば理想的だと感じています。

また、瀬戸内国際芸術祭の開催がない年であっても、それほど変わらずゲストを迎えられる魅力ある宿にできません。宿を訪れる方々との一期一会の交流を積み重ねていくことで、また新しい良いものが生まれていく—そんな気持ちで民宿を続けていきたいと思っています。

## 農林漁家民宿の今後の目標を教えてください

今後の目標として、まず大切にしたいのは「互いを思いやる心」を磨くことです。そのためには、まず自分自身の気持ちをきちんと相手に向けることが大切だと思っています。時には自分も傷つくのではないかなと思うような話題や場面でも、失礼にならない範囲で自分をきちんと出しながらかき合うことで、本当の交流が生まれるのではないかなと思います。日々のゲストとのやり取りの中で、その心をより高めたいかなと思います。

また、豊島の魅力を伝えるうえで、私たちが気づける部分には限界があります。豊島の文化財、自然身に発見できる歴史や、それを営まれてきた暮らしなど様々な魅力をゲストに伝えたいと思います。特別な施設や華やかな名勝観光地があるわけではなく、自然とともに歩む普通の暮らしの中にこそ魅力があり、その魅力に惹かれて訪れる方が増えてほしいと願っています。そんな思いを次の世代へ継承していくことができれば理想的だと感じています。

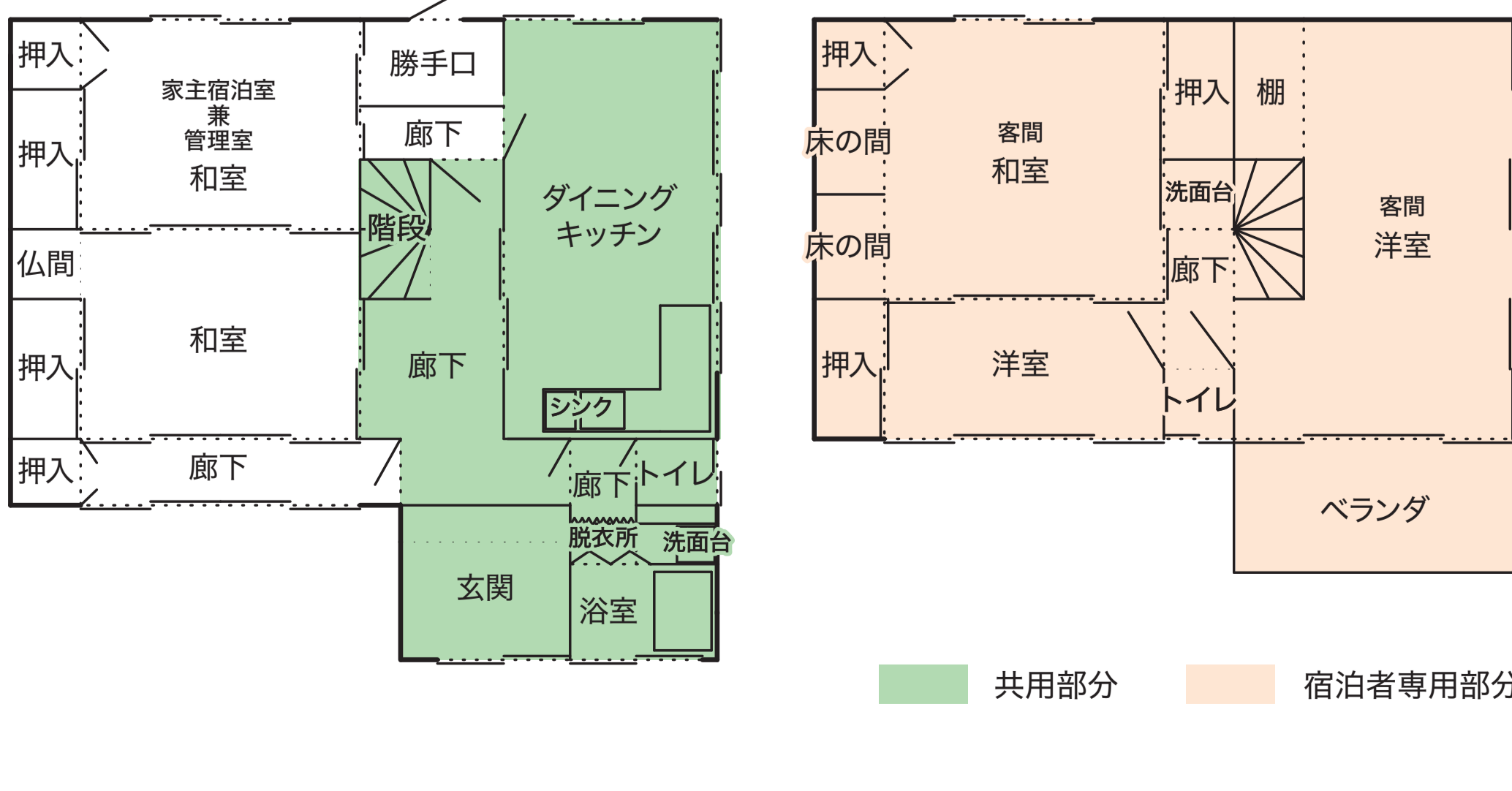
また、瀬戸内国際芸術祭の開催がない年であっても、それほど変わらずゲストを迎えられる魅力ある宿にできません。宿を訪れる方々との一期一会の交流を積み重ねていくことで、また新しい良いものが生まれていく—そんな気持ちで民宿を続けていきたいと思っています。

また、瀬戸内国際芸術祭の開催がない年であっても、それほど変わらずゲストを迎えられる魅力ある宿にできません。宿を訪れる方々との一期一会の交流を積み重ねていくことで、また新しい良いものが生まれていく—そんな気持ちで民宿を続けていきたいと思っています。



宿の周辺には豊島の生活感が漂う路地などが多く点在しています。海外の来訪者からは日本を感じられると好評価をいただいています。

## 豊島かりんの宿 間取り図



## 豊島かりんの宿 基本情報

住所	〒761-4662 香川県小豆郡土庄町豊島唐櫃2597-3
電話番号	080-2897-2703
活用した建物	自宅
営業期間	通年型
宿泊スタイル	一日一組限定 棟貸し(管理者同居)
体験メニュー(オプション)	ご希望により応談(歴史民俗+自然の探訪、野菜収穫など)
食事	朝食
宿泊料	2名まで18,000円 1名増えるごとに+8,000円
ホームページ	「Airb&b」の「豊島かりんの宿」をご覧ください。

※施設の情報については、令和7年12月18日現在のものです。